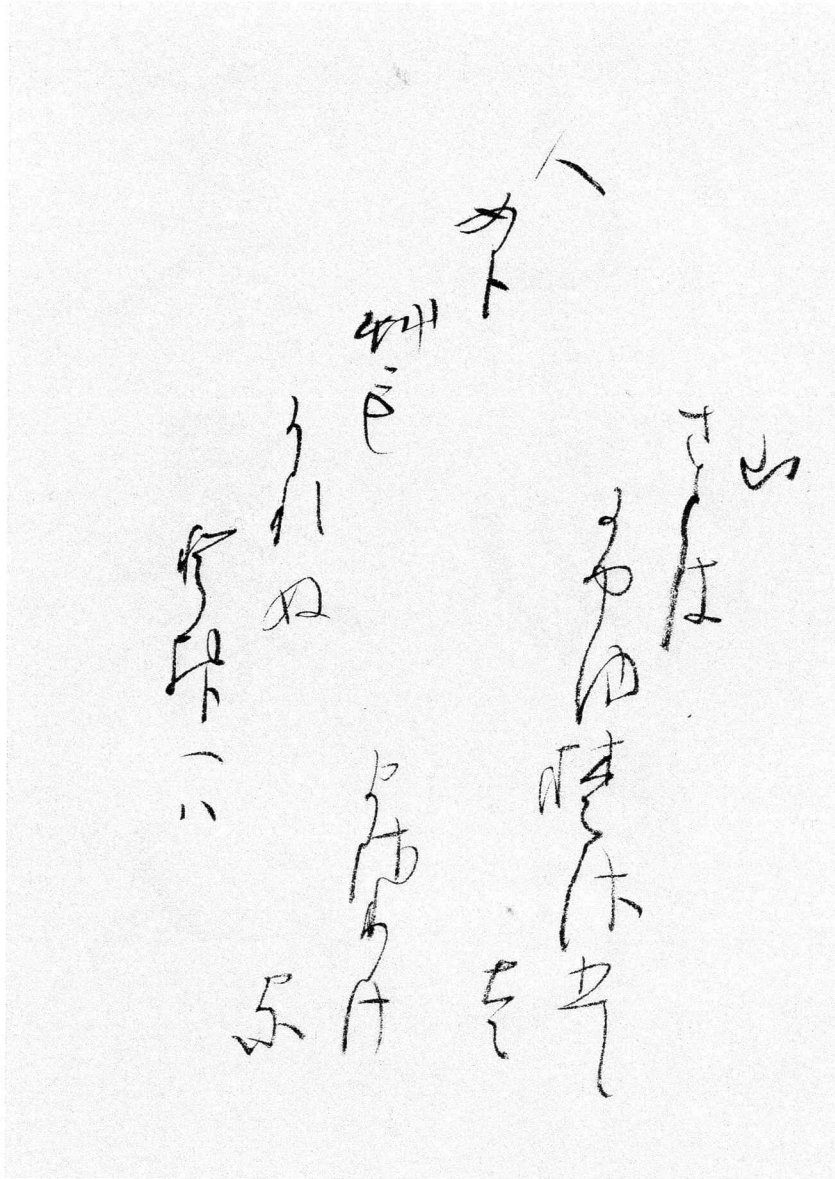


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

山里は冬ぞさびしさまさりける 人目も草もかれぬと思へば

みなもとのむねゆきあそん  
源 宗于朝臣



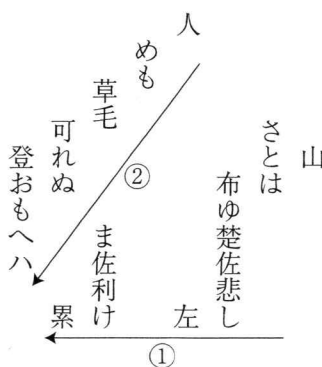
中村素堂先生の書

書間欽堂先生提供

〈歌意〉  
「山里はただでさえ寂しいが、冬はいつそう寂しくなることである。人目もなく、草も枯れてしまうことを考えると。」  
この歌は『古今集』(冬・三一五番)に出ています。

(源むねゆきの朝臣)  
光孝天皇の皇孫、是忠親王の子。天慶二年(九三九)没。

〈よみ〉



上下2集団構成で、下部を強く、上部を軽く書かれています。

(青藍)